

はじめに

海の中では多くの生物が生息し、食う・食われるという関係を保ちながら生態系をかたちづくっています。これを「食物連鎖」と言います。この連鎖は非常に複雑で、栄養分の流れが網の目のように表現されることから”Food web”とも呼ばれます。

食べたものが生物を介して次から次へと流れていくことによって、栄養分が同じところに溜まることなく動いていきます。この流れが止まってしまうと栄養分がどんどん溜まるようになり、最後には腐ってしまいます。栄養分がスムーズに流れるためには、生物が多様に生息していることが大切です。

川崎市環境局では、平成18年度から22年度にかけて、川崎港に生息する生物相の調査を実施してきました。生物たちは、工場地帯のすぐ脇でたくましく生き活きと生活していました。本冊子で紹介する調査は、生態系の機能（栄養分が円滑に流れ、食物がきちんと連鎖しているのかどうか）を正しく評価する上でとても大切なことです。この冊子は、写真やイラストを中心として、調査結果にわかりやすく解説を加えたものです。環境教育やレジャーなど、多くの場面でこの冊子を活用いただき、川崎港にすむ生物に少しでも興味を持って頂けたら幸いです。



空から見た川崎港（川崎市港湾局 H.P.より）

【表紙写真】上から順にマダラウミウシ、イッカククモガニ（抱卵個体）、フレリトゲアメフラシ、ドロメ、イソギンチャクの仲間、ワレカラの仲間、イソガニ